

# 医療連携室だより 第10号

平成 17 年 7 月 21 日 公立置賜総合病院医療連携室 ☎0238-46-5000 内線 1902, 1903



## 麻酔科と医療連携

公立置賜総合病院 副院長 加藤 滉

私の専門は麻酔科です。麻酔科の仕事は手術室で行われることが多く、医療連携室との関係はそれほど密接ではありません。しかし、麻酔科の存在や麻酔科医の人数が病院の機能に少なからぬ影響をあたえていることは事実で、「麻酔科がある」「麻酔科医がいる」ということが、信頼できる病院の必須条件（必ずしも十分条件ではありませんが）になっています。

患者さんに選ばれる病院、患者さんを安心して紹介してもらえる病院の重要な要素であることは確かでしょう。

公立置賜総合病院では毎月 200 例以上の手術が行われています。そのほぼ半分を麻酔科が担当しています。実際の麻酔では、手術前から主治医の相談を受けて無理のない治療計画をたてたり、手術後も持続硬膜外鎮痛や麻薬の持続的静脈内注入によって良質な鎮痛をはかって、患者さんが満足する順調な結果が得られるように努力をしています。

麻酔以外の業務としては、救命救急センターの外来を借りて「ペインクリニック」を細々と行っています。

麻酔科医の不足は当院でも深刻な問題です。しかもこれから、研修医や救急救命士の教育も担当することになっていますので、現状ではこれ以上の業務拡大は困難でしょう。「麻酔科医の不足」は、日本で麻酔科が発足した当初から 50 年以上前からの重要課題です。麻酔科医の数は増えているのですが、需要がそれを大きく上回って増え続けているのです。

最近では麻酔科だけではなく、産科・小児科をはじめほぼすべての科で医師不足（特に勤務医）が明らかになり、医師の過労が問題になっています。

病院がもっている機能を十分に発揮するには、医師をはじめとする医療スタッフの身体と精神の充実が必要です。そのためには、医療スタッフの拡充と勤務体制の改善が求められます。同時に、基幹病院と地域医療施設との「真の医療連携」を一層すすめることが重要でしょう。

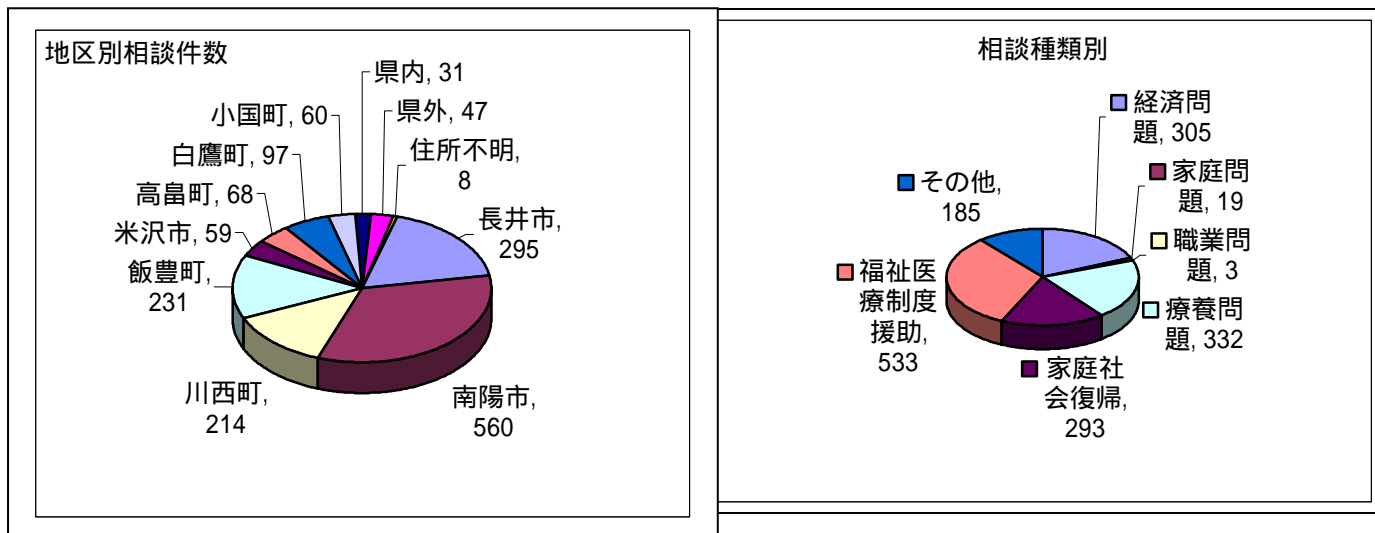
かつて、地域が一体となって行った「置賜広域病院組合」設立に向けた協力が、もう一度必要な時期であると考えます。

## ケースワーカー室から 平成16年度の相談件数と種別

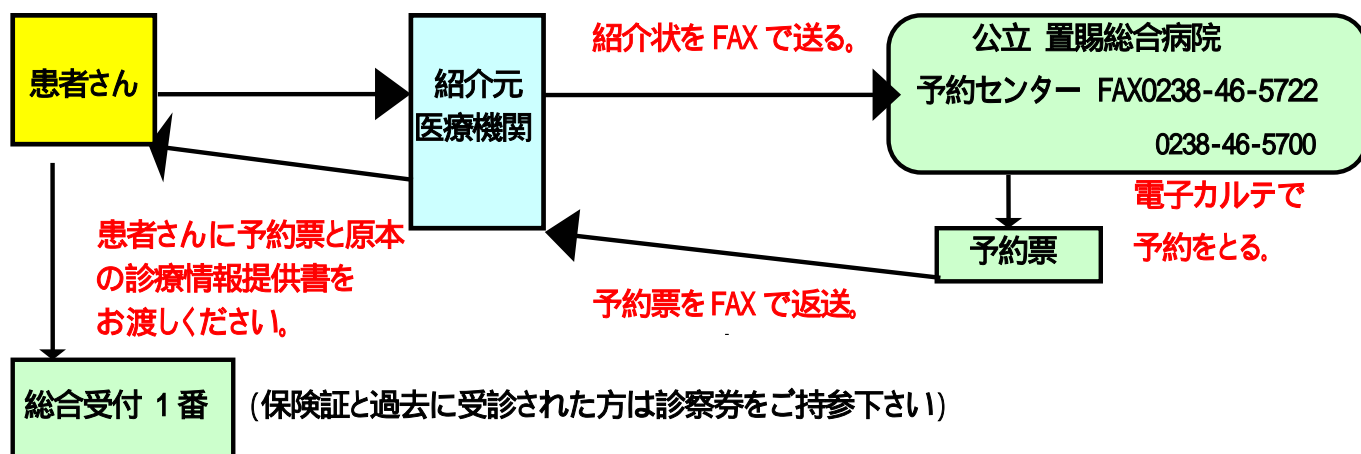
公立置賜総合病院にケースワーカー2名が配置されており、昨年度は、1670件の相談がありました。患者本人や家族からばかりでなく、主治医、看護師、行政機関、介護保険関係者からの相談もあります。相談内容は、福祉医療制度の活用について、経済的問題、退院後の生活について等、関係機関との連絡調整が必要なケースが多くなっています。

皆様、電話等でも結構ですので、お気軽にご相談下さい。

数字は延べ件数です。



## 患者さんをご紹介いただくにあたって



紹介状(診療情報提供書)を予約センターにFAXして下さい。

直ぐ予約をとり、予約票をFAXでお返しいたします。なお、予約センターでの受付時間は、**月曜から金曜までの8:30から17:00まで**です。

それ以外の時間は、翌日(土曜・日曜・祭日は休日明け)の朝に予約をとり、予約票をFAXいたします。

患者さんに原本の紹介状と予約票をお渡しください。その紹介状は当院のカルテに保管させていただきます。

紹介状があっても事前に予約がないと、患者さんの待ち時間が長くなります。できるだけ事前の予約をお願いします。